

クリーンエネルギーの

利活用と促進について



問 地球温暖化への危機感や、原油価格の高騰から太陽光発電、風力発電、バイオマスなどのクリーンエネルギーに対する関心が高まっている。

太陽光発電、日本では世界最大の発電量を誇っている。

導入も進み価格の値下がりから国の補助金制度も今年限りで廃止となる。

一方、森林廃材などの活用分野で、木質ペレットの工場が本格的創業に入り、ペレットストーブにも補助金制度を設けて拡大を目指している。

また、廃食用油は固めて捨てるのではなく、ディーゼルエンジンの燃料として有効活用されている。

この他にも雪氷熱利用、バイオマスエネルギー等がある。

更に電力会社では自然エネルギー普及促進のために

グリーン基金への加入参加を呼びかけ、太陽光発電や風力発電施設への助成や、環境教育に役立てている。

化石燃料、石油の利用も後40年とも言われている中、国、地方公共団体、企業、個人が連携しクリーンエネルギーの実用化に向けて行動を起こす時と考える。

町が取り組んでいる状況と、今後の対策について伺う。

- ①太陽光発電、現在の普及状況と、今後の推進計画は。
- ②木質ペレット、施設の暖房用として、ペレットストーブの導入の考えは。
- ③バイオディーゼル燃料として、廃食用油の改修事業への取り組みは。
- ④クリーンエネルギー住民意識と啓発運動パネルを利用した展示計画等は。

町長

①北海道電力の調査によると、本年11月末現

在で、本町における太陽光発電の普及状況は、29戸となっている。

今後の普及促進については、太陽光発電に対する理解を深めるための広報活動や補助、助成事業の周知に努め、公共施設の新築や、大規模改修に合わせて太陽光発電の導入も検討したいと考えており、さかえ保育所の建て替えについて太陽光熱の利用ができないか内部での協議を進めている。

- ②木質ペレットは、他のバイオマス燃料に比べ、扱いやすいことから、近年、利用が図られているが、反面、ガスや、石油、電力よりも手間がかかり、供給や燃焼面、貯蔵などに難点がある。

価格も30万から80万円と高額で経済性の観点から課題があるが、いずれにしても、クリーンエネルギーとして、今後の普及が期待されておられ、本町でも、その

導入や、道の補助制度の活用について検討したい。

- ③給食センターでは、年間およそ4,000リットルの食用油を使用しているが、その処理は、無料でリサイクル業者が回収し、再生処理を行い、家畜飼料やボイラー用燃料として再利用している。また、各常設保育所では週1・5リットルから2リットル程度の廃油が

生じ、新聞紙に染みこませ「燃やせるごみ」として処理している。

- ④今後、新町にて新エネ及び省エネを含めた地球温暖化防止に向けた推進体制を確立した中で、啓発等の具体的な内容を検討し、国や道のソフト事業を活用しながら、パネル展などを含め、普及啓発活動を推進したい。



ペレットストーブ

※一般質問の質問内容及び答弁内容は要約してあります。